

令和 7 年 8 月 26 日

部農会長・部農会会員の皆様へ

J A ふ じ 伊 豆
韮山営農経済センター

第 8 回 (8/26号)

水稻病虫害発生予察の結果について

① 生育状況

生育状況は、昨年に比べて前進傾向に推移しております。韮山地区では出穂期から開花期にかかっていました。長岡地区の小坂、天野、大仁地区の白山堂では開花期に入っており、大仁地区の神島では乳熟期に入っていました。山間地の田原野地区、浮橋地区では黄化籾の割合が 8 割程度となり、収穫 1 週間前から収穫適期となっていました。

② 病虫害状況

今回は、韮山地区の奈古谷、寺家、北江間、長岡地区の小坂、天野、大仁地区の白山堂、神島に関しては開花が進んでいたため、圃場内での調査は実施しませんでした。

今回調査をした圃場では、共同防除の効果もあり昨年と比べてウンカ類、ヨコバイ類共に発生も少なく被害の心配はありません。

今年度は全国的にカメムシの発生が多く、伊豆の国管内でもカメムシの発生が報告されています。カメムシによる斑点米の発生は、収穫米の等級を下げる大きな原因になりますので出穂後の薬剤防除の実施をご検討ください。出穂後の周辺の草刈りは圃場にカメムシが逃げ込んでしまう危険がありますので注意してください。

殺虫剤

○スタークル粒剤 3kg/10 a 3,660円/1袋 (3kg)

時 期：出穂期～出穂10日頃

備 考：上記時期はカメムシの散布適期です。秋ウンカもこの頃に密度が増加してきます。

カメムシ対策も兼ねてこの時期に散布を推奨します。

3 cm程度の湛水状態で散布し、4～5 日間は湛水状態を保つようにし、散布後 7 日間は落水やかけ流しをしないようにしましょう。

○トレボン粉剤DL 3～4kg/10 a 1,400円/1袋 (3kg)

時 期：収穫 7 日前まで

備 考：ウンカ類、ヨコバイ類、イナゴ類、カメムシ類

秋ウンカに対して散布する場合は、株元にかかるように行う。

※商品の値段は全て税込表示です。



←昨年度山間部で発生が多かった
ホソハリカメムシ

問い合わせ：韮山営農経済センター
佐藤 055-949-0055

※JAふじ伊豆ホームページでも確認頂けます。

※FM伊豆の国でも朝・昼放送を開始しました。